

会合の概要

- 2015年世界無線通信会議(WRC-15: World Radiocommunication Conference 2015)は、国際電気通信連合(ITU: International Telecommunication Union)が開催するワイヤレス分野の最大規模の会合。3~4年毎に開催(今回は2012年に開催)。
- 2015年11月2日から27日まで、スイス・ジュネーブにて開催。我が国からは、総務省電波部長をはじめ約80名が出席。世界162か国、地域機関(APT(アジア・太平洋)、CEPT(欧州)、CITEL(米州)等)、国際機関等から約3,800名が参加。
- 無線システムの国際周波数分配等を規定する無線通信規則の改正を審議。我が国のワイヤレス分野の国際競争力を強化する観点から重要な会議。

我が国に関連する主要議題

○ IMTへの周波数帯の追加特定

第4世代携帯電話等(IMT: International Mobile Telecommunications)向けに追加する周波数について検討。

○ 衛星を活用した無人航空機システム導入のための周波数分配

見通し外で運用される無人航空機システムを制御するための衛星経由の通信について、固定衛星業務に分配された周波数帯の使用を検討。

○ うるう秒調整の見直し

うるう秒調整の廃止を含めた協定世界時の修正について検討。

○ 自動運転の実用化を加速する79GHz帯レーダーへの周波数分配

自動運転等での活用が可能な高分解能レーダーを実現するため、77.5~78.0GHz帯をレーダー用に分配することを検討。

○ グローバルフライトトラッキング(人工衛星を利用した「民間航空機追跡システム」)の導入

地球全域において航空機の追跡が可能となるグローバルフライトトラッキングについて検討。

○ 次回WRC-19の主要議題

次回以降の世界無線通信会議(WRC)の議題等について検討。

我が国は、2019年に開催予定の次回WRC(WRC-19)の議題として、2020年以降の第5世代移動通信システム(5G)での利用を念頭に置いた6GHz以上の周波数帯の検討等について提案。

主要議題の審議結果

IMTへの周波数帯の追加特定

- ・ 現在、我が国のみが使用している1.5GHz帯については、今回グローバルバンドとして追加されたが、新たな周波数の確保については、各国の利害が対立し行われなかった

衛星を活用した無人航空機システム導入のための周波数分配

- ・ 衛星を活用した無人航空機システムを制御するために使用する周波数帯について合意
 - ※ 今後、長距離貨物輸送等、大型の無人航空機を活用した新たなサービスの創出が期待される。

うるう秒調整の見直し

- ・ 今後、うるう秒調整の廃止に向けた検討を継続して行うため、幅広い関係団体を含めた議論をさらに進め、次々回(2023年)のWRCまでに結論を得ることが決定

自動運転の実用化を加速する79GHz帯レーダーへの周波数分配

- ・ 自動車の安全性向上や自動運転の実用化を加速するため、自動車で利用されるレーダーを高性能化する周波数拡大について合意
 - ※ 現在の車載型レーダーでは100m先で20cm程度のものを認識することが可能だが、レーダーに利用する周波数の幅を拡大することで、7.5cm程度のものまで認識することができるようになる。

グローバルフライトトラッキング(人工衛星を利用した「民間航空機追跡システム」)の導入

- ・ 人工衛星を利用した民間航空機追跡システムで使用する周波数帯について合意
 - ※ マレーシア航空失踪事故を踏まえ、国際民間航空機関等からの要請を受け検討したもの。地上から航空機を追跡・把握するシステムで使用されている周波数帯を、人工衛星を利用したシステムでも利用可能とすることに合意。
我が国をはじめ欧米の航空会社ではインマルサットを利用したシステムが導入されているが、コスト面の問題で導入していない航空会社も多く(マレーシア航空も導入していなかった)、今回の合意により、廉価かつ容易に導入できるようになる。

次回WRC-19の主要議題

- ・ 2020年以降に第5世代移動通信システム(5G)において使用する周波数帯に関して、次回(2019年)のWRCで具体的な周波数を検討することについて合意
 - ※ 日本が提案した12の5G候補周波数帯のうち、9の周波数帯を反映し合意



今回の審議結果を踏まえ、今後、必要な制度整備を行うとともに、新たな周波数利用の早期実現に向けて研究開発や標準化等を推進